

平成26年度

仙台市国民健康保険事業特別会計

予算(概要)について

# 1 国民健康保険事業特別会計の平成 26 年度予算編成について

高齢化の進展，医療の高度化に伴う医療費の増嵩により国保の財政は，依然として厳しい状況である。このような状況の下，平成 26 年度予算編成においては，必要な経費を見込みつつ，適切な予算編成を行う方針である。

## (1) 被保険者数・世帯数

- ① 被保険者数・世帯数については，平成 23 年度以降の動きは震災の影響を受けていることが考えられることから，震災前の伸び率を参考に推計をしている。平成 26 年度は平成 25 決算見込に比べ，世帯数については増加傾向であり，被保険者数については，前期高齢者及び介護 2 号被保険者は増加傾向，退職被保険者は減少傾向，65 歳未満の被保険者は減少傾向の見込みである。

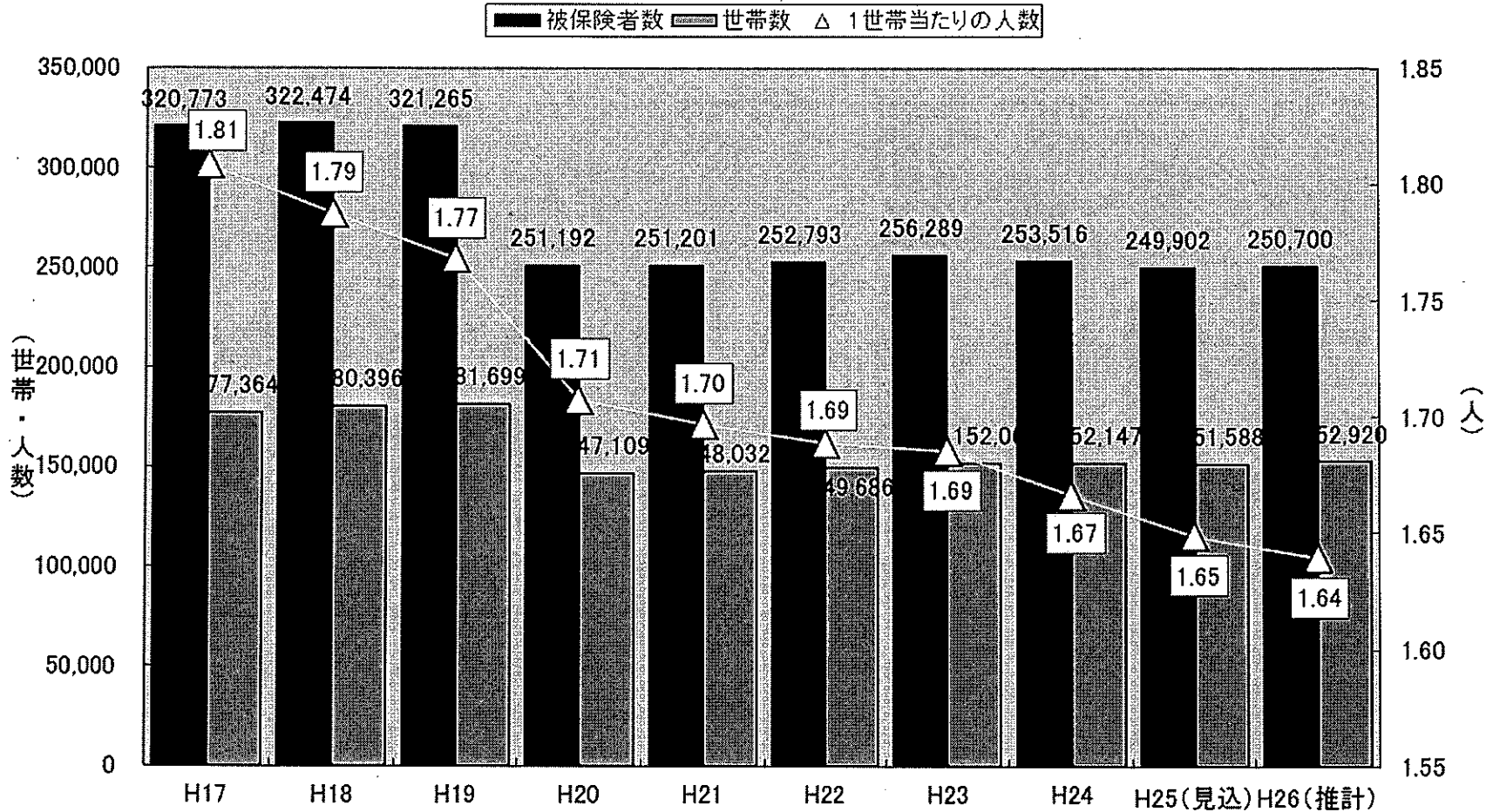
## (2) 歳出

- ① 保険給付費については，震災による一部負担金免除実施期間中の保険給付費の伸びが例年より大きくなっていることから，震災前の伸び率により平成 26 年度を推計している。(増加傾向)
- ② 後期高齢者支援金及び介護納付金については，国から 1 人当たりの負担額が提示され，いずれもその負担額が大きな伸びを示している一方で，過年度のマイナス精算額が増加しており，納付額は平成 25 年度より減少する見込みである。
- ③ 共同事業拠出金については，対象となる高額医療費共同事業（1 件 80 万円以上のレセプト）及び保険財政共同安定化事業（1 件 30～80 万円未満のレセプト）の給付費の減少に伴い，それぞれの拠出金も減少する見込みである。

## (3) 歳入

- ① 保険料については，保険給付費は伸びているものの，国の財政支援による保険料軽減対象世帯の拡大等により，全体として減少する見込みである。
- ② 国庫支出金及び県支出金については，保険給付費の伸びに伴い，療養給付費負担金が増加する一方で，国調整交付金，県調整交付金については，一部負担金免除の終了に伴い減少する見込みである。
- ③ 前期高齢者交付金については，交付対象となる 65～74 歳の前期高齢者の保険給付費の伸びに伴い，増加の見込みである。(増加傾向)
- ④ 療養給付費交付金については，交付対象となる退職被保険者数の減少により減少の見込みである。(減少傾向)
- ⑤ 共同事業交付金については，歳出の拠出金同様，高額医療費共同交付金及び保険財政共同安定化交付金とも減少する見込みである。

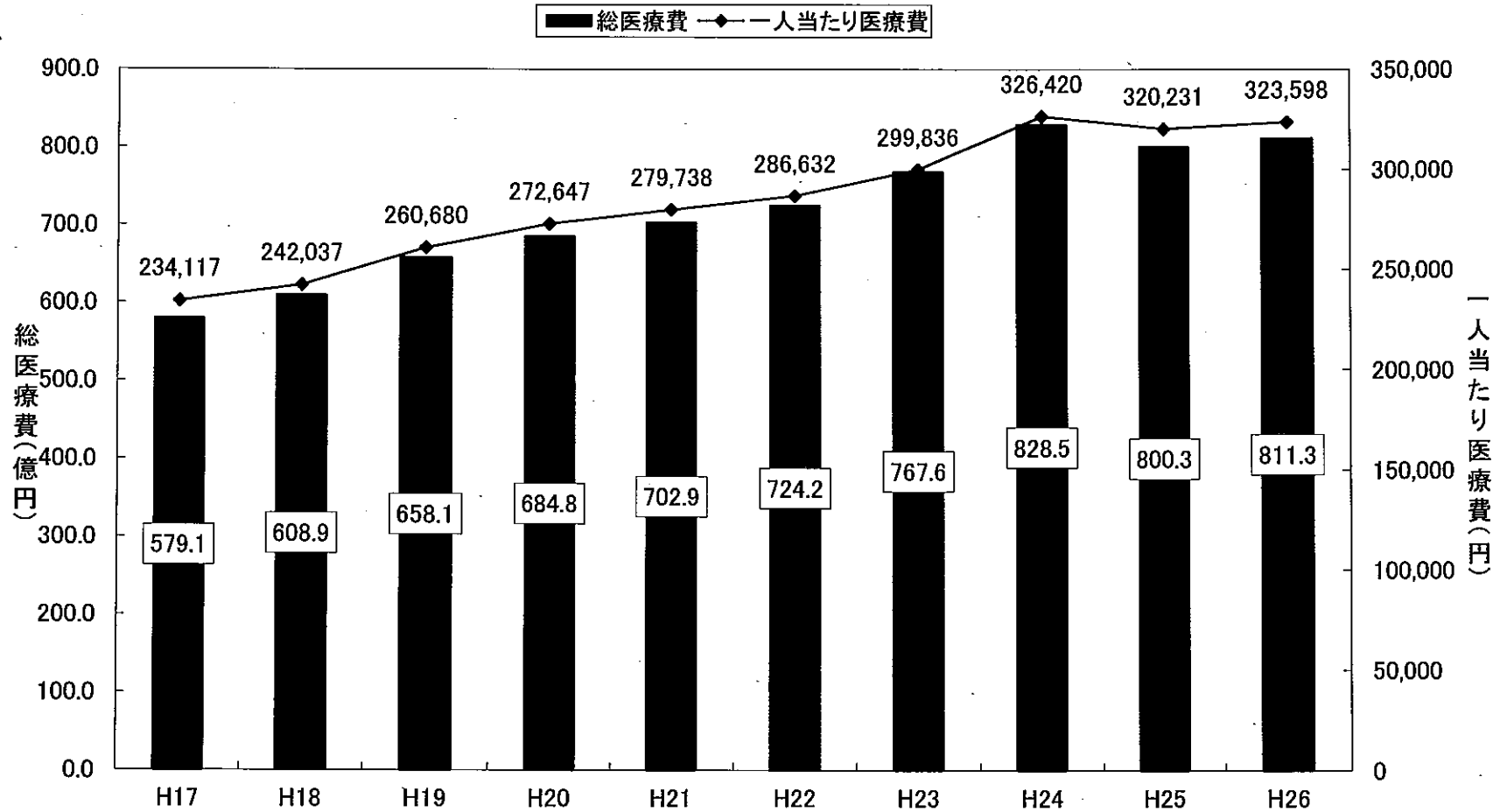
## 2 世帯数・被保険者数の推移



注) H17～H25は決算ベース(H25は見込み), H26は当初予算ベース

注) 一般被保険者＋退職被保険者

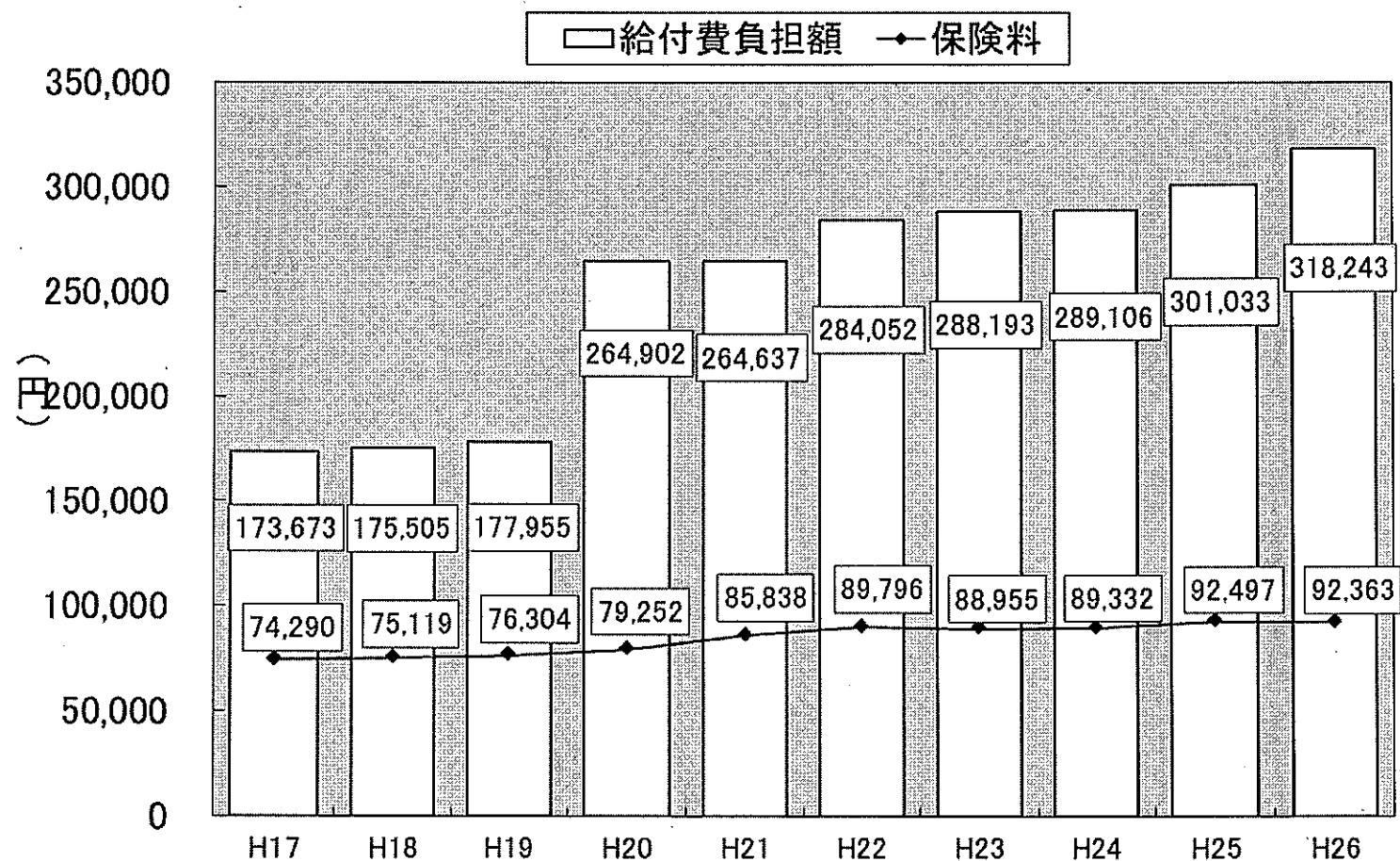
### 3 医療費の推移



注) H17～H25は決算ベース(H25は見込み), H26は当初予算ベース

注) 一般被保険者+退職被保険者

#### 4 一般被保険者一人当たりの給付費負担額及び保険料の推移



注1) 当初予算ベース

注2) 給付費負担額 = [医療給付費(老人保健拠出金含む) + 後期支援金(H20~)] ÷ 一般被保険者数

注3) 保険料 = 医療分 + 支援分

## 5 平成26年度国民健康保険事業特別会計予算案(概算)

